

動画視聴ニーズの充足に関するイノベーション — 時間的制約・場所的制約からの解放

1. 「映画」視聴 — 「映画館」で、映画館が決めた「上映スケジュール」時間に合わせて、「映画」を視聴する

動画視聴ニーズに対応して、最初に「発明」された動画コンテンツは**映画**という形態においてであった。映画は 19 世紀末に発明され、20 世紀前半に社会的に普及した。

2. 「テレビ放送」視聴(1) — 「家」で、テレビ局が決めた「放送スケジュール」時間に合わせて、「テレビ放送」を視聴する

映画の次に「発明」された動画コンテンツの形態が、**テレビ放送番組**である。テレビ放送は、20 世紀前半期に開発が進み、20 世紀後半期には映画に取って代わって、動画コンテンツの主役となった。「映画を視聴するためには外出して映画館に出かける必要があったが、テレビ放送番組は映画館に出かけなくても自宅ですくろぎながら見ることができる」という有用性を持つという意味でイノベーションであった。

ただし映画館と自宅という違いはあるが、「映画」も「テレビ放送」も視聴場所が限定されているという点では変わりなかった。また最初は、「テレビ放送番組を放送と同時に視聴する」という「**同時視聴**」型での視聴に限定されていた。テレビ番組の録画装置が登場・普及以前は、「テレビ局のテレビ放送スケジュールに制約」されていたテレビ放送視聴は、「映画館の上映スケジュールに制約」されていた「映画」視聴と同じく、「**視聴時間限定**」型動画視聴であった。

3. 「テレビ放送」視聴(2) — 「家」で、自分で決めた「好きな」時間に、録画した「テレビ放送」を視聴する

テレビ放送は、最初はテレビカメラで撮影した画像をそのまま放送する「**生放送**」形式であったが、撮影した動画を磁気テープに記録する放送業務用ビデオテープレコーダー (Video Tape Recorder、以下 VTR と略記) の登場・発達とともに、VTR に収録したものを編集・加工して放送する「**録画放送**」形式が次第に主流となっていった。

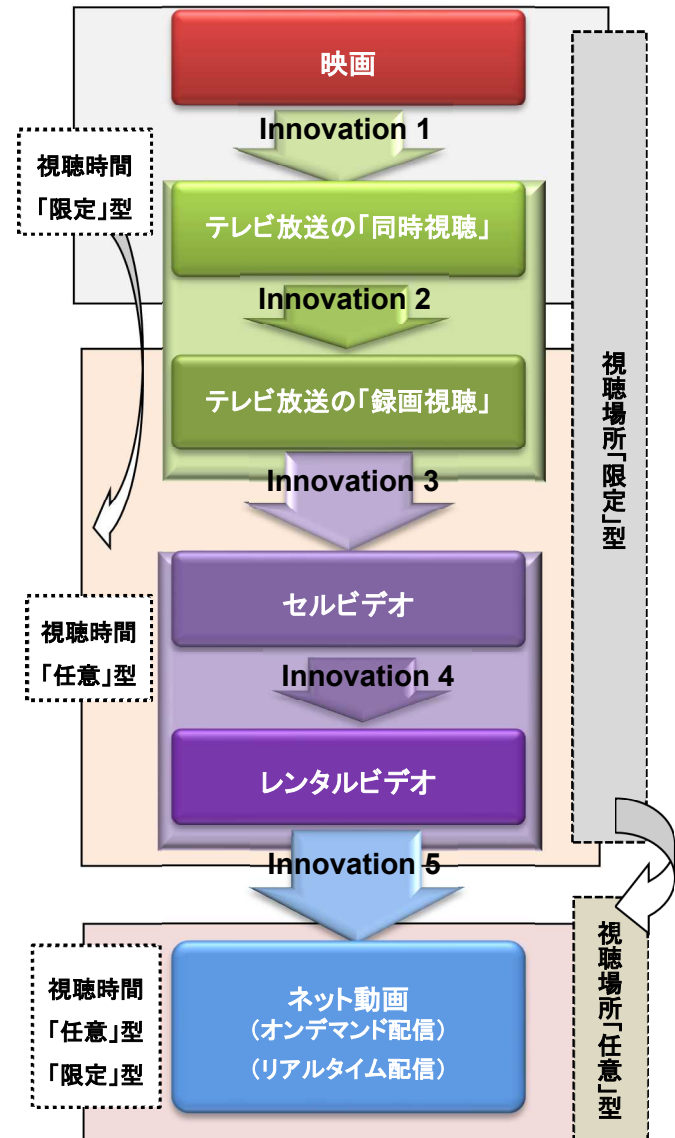
というのも、テープへの記録は、フィルムへの記録と異なり、現像処理などが不要で記録直後の再生確認、記録データの上書き、繰り返し再生、スロー再生・スチル再生・高速再生などの特殊再生といったことが可能だったからである。

こうした放送業務用 VTR 技術を seeds として家庭用 VTR の製品開発が進められ、1970 年代後半期には家庭用 VTR の実用化が始まった。家庭用 VTR は、「録画したテレビ放送番組を自分の好きな時間に視聴する」という「**録画視聴**」型での動画ニーズ充足を可能とした。すなわち、家庭用 VTR という製品イノベーションは、「自分のスケジュールに合わせて自分の好きな時間に」視聴する「**視聴時間任意**」型動画視聴を可能とした。(後に、DVD レコーダーや HDD レコーダーが開発・利用される。)

4. 「ビデオ・ソフト」視聴(1) — 「家」で、自分で決めた「好きな時間」に購入ビデオソフトを視聴する

家庭用 VTR の社会的普及にともない、映画会社やテレビ会社は、**セルビデオ**、すなわち、過去の映画やテレビ放送番組を収録したビデオ・ソフトの個人消費者向け販売を開始した。これにより、過去の映画や過去のテレビ放送番組などの中で自分の好きな動画コンテンツを「自分の好きな時間に視聴する」ことが可能となった。

図 1 動画コンテンツの物理的形態に関するイノベーション



5.「ビデオ・ソフト」視聴(2) —「家」で、自分で決めた「好きな」時間にレンタル・ビデオソフトを視聴する

セルビデオの販売価格は、現代とは異なり、最初が高価格であった。そのためビデオソフトをレンタルで低価格で貸し出すというレンタルビデオ店が登場した。アメリカでは 1977 年には**レンタルビデオ**店が開業している。

レンタルビデオ店の登場により、高価格のため購入できる個人消費者の数が限定されていたセルビデオを、多数の個人消費者がレンタルビデオとして低価格で借りることができるようになり、「映画館で映画を見る」、「家でテレビ放送を見る」という形での動画ニーズの充足に加え、「ビデオ・ソフトを家で見る」という形での動画ニーズの充足が社会的により広がることとなった。

6.「ネット動画」視聴 —「自分の好きな」場所で「自分の好きな」時間にオンデマンド配信型ネット動画を視聴する、あるいは、「自分の好きな」場所でコンテンツプロバイダーが決めた「配信スケジュール」時間に合わせてリアルタイム配信型ネット動画を視聴する

21世紀になると、インターネットの技術的発達により、映画・テレビ放送番組といった既存の動画コンテンツに加えて個人が撮影・制作した動画コンテンツをネット経由で視聴することが可能になった。スマホの高性能化とともに、高速なネット接続環境を定額で家の外でも利用可能となったことで、「電車の中など家の外で動画コンテンツを見る」という形での動画ニーズの充足が可能になった。

ネット動画の主体は、こうした場所的制約・時間的制約が最も低いオンデマンド配信型動画であり、YouTube、Netflix、Amazonプライムなどにより提供されている。ただその一方で、ニコニコ生放送(<https://live.nicovideo.jp/>)やAbemaTV(<https://abema.tv/>)のようにリアルタイム配信型も存在する。すなわち、ネット動画では、動画コンテンツに関する視聴時間「任意」型視聴と視聴時間「限定」型視聴の両方が存在している。

<関連参考事項>

右記の表2に示したように、「映画」から「TV 放送」へのイノベーションは、記録メディアの視点から見ると「前進」的イノベーションであったが、画質を大きく規定する画素数の面からは、「後退」的イノベーションであった。

注1 映画フィルムの画素数は、奥山正次(2018)「デジタルカメラと 35mm フィルムの解像度」2018/07/27 (https://www.dxa.co.jp/column/film_d/)の記述に基づく推定値である。

注2 日本では VTR(ビデオテープレコーダー、Video Tape Recorder)という名称で呼ばれるのが一般的であるが、カセット・テープを利用しているという意味で海外では VCR(ビデオカセットレコーダー、Videocassette recorder)と呼ばれている。

注3 D-VTR(digital video tape recorder)の最初は、SONY が 1986 年に発表した 3/4 インチ幅テープ、コンポーネント信号方式の D-1 規格である(最初の製品は 1987 年 4 月に販売開始された DVR-1000 である)。その後、3/4 インチ幅テープ、シリアル伝送方式の D-2 規格製品が 1988 年には発表・販売開始され、シリアル伝送方式が標準となった。

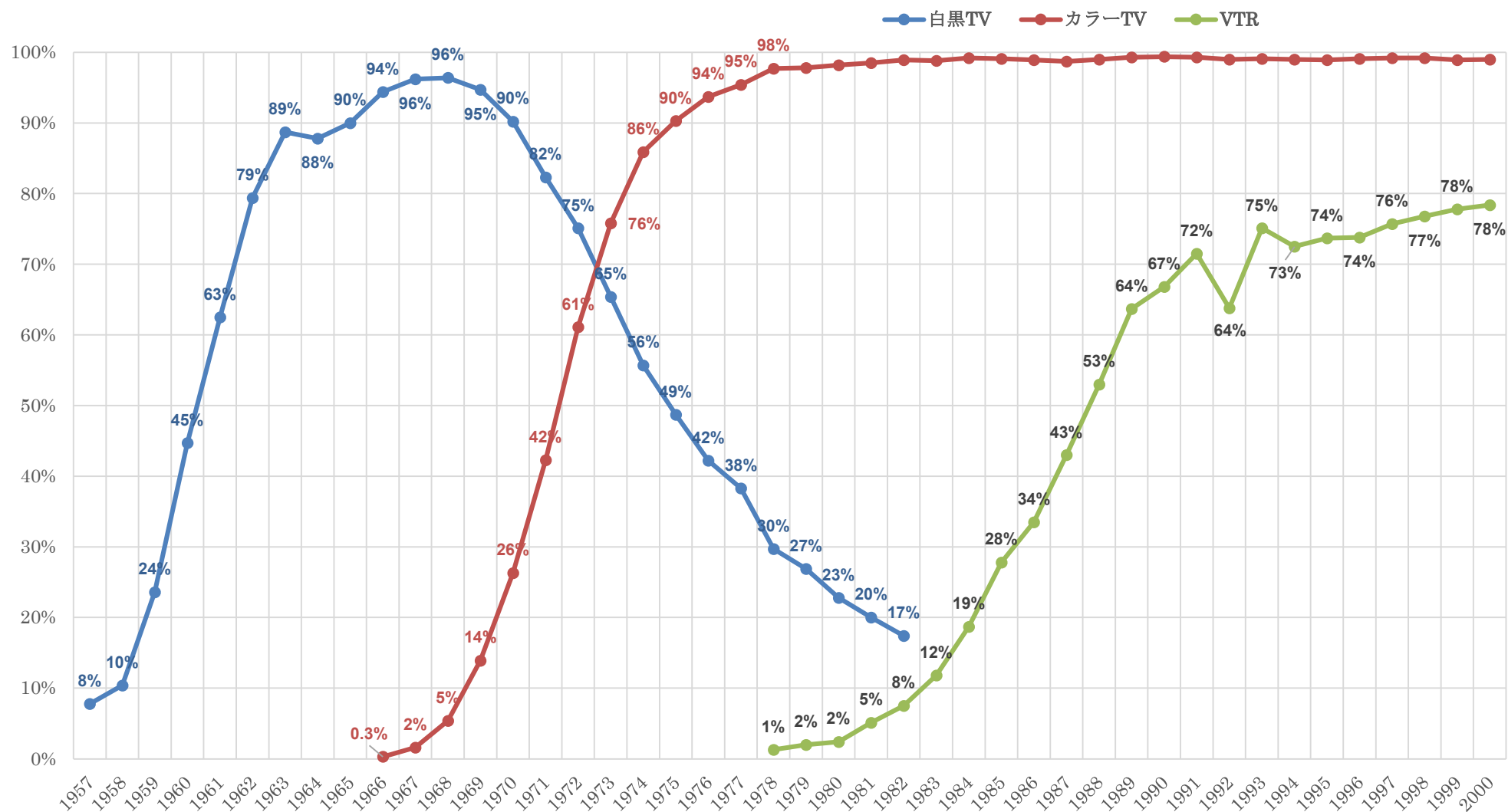
表1 動画記録メディアのレンタルから動画配信へのイノベーション

動画コンテンツの提供方式		年	方式	再生装置	画素数(解像度)
レンタルビデオソフト	VTR	1977	アナログ	TV	30 万画素
	DVD	2000	デジタル		200 万画素(2K)
	ブルーレイ	2007			
ネット動画配信 (2003 Yahoo!動画, 2005 YouTube, 2006 ニコニコ動画, 2007 NetFlix)		2003		スマホ PC TV	800 万画素(4K)

表2 動画記録技術に関する、映画から TV 放送へのイノベーション

用途	録画	メディア	年	記録 メディア	形状	記録 方式	画素数 (解像度)	
アナログ 映画	アナログ 映画 カメラ	オープンリール型 フィルム	1895	フィルム	オープン リール型	アナログ	500 万画素～ 1,000 万画素 レベル ^[注1]	
アナログ TV 放送	テレビ カメラ	オープンリール型 VTR	1956		磁気 テープ		カセット型	アナログ・ テレビ放送 レベル (約 30 万 画素レベル)
		カセット型 VTR ^[注2]	1971					
		カセット型 D-VTR ^[注3]	1987					
						デジタル		

図2 日本における白黒TV、カラーTV、VTRの世帯普及率の歴史的推移 1957-2000



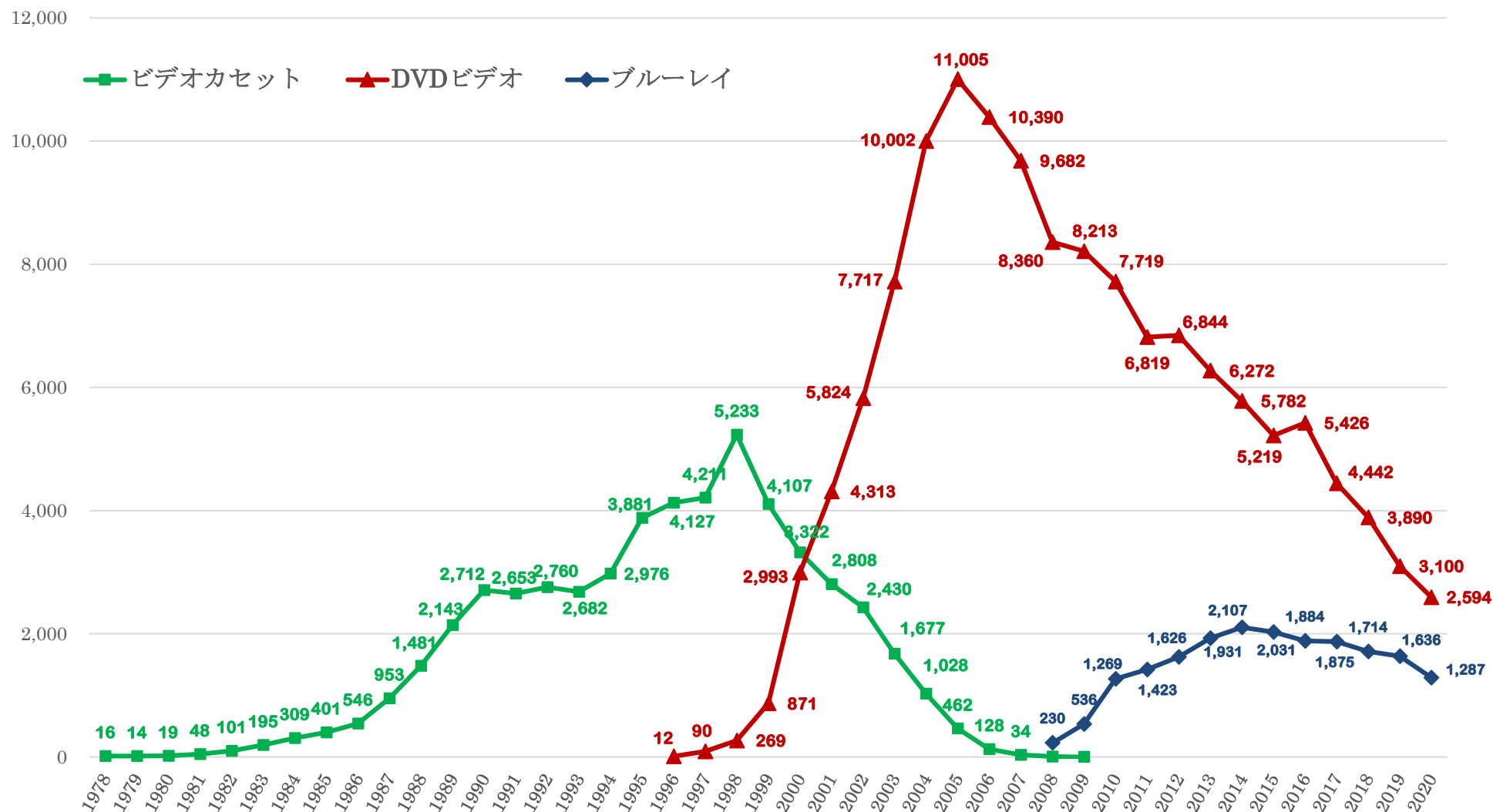
[数値の出典]

内閣府「主要耐久消費財等の普及率(平成 16(2004)年 3 月で調査終了した品目)」

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/shouhi/shouhi.html>

<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1167457/www.esri.cao.go.jp/jp/stat/shouhi/quarter/0403fukyuritsu.xls>

図3 日本におけるビデオソフトの売上数量の推移 1978-2020(単位:万本・万枚)



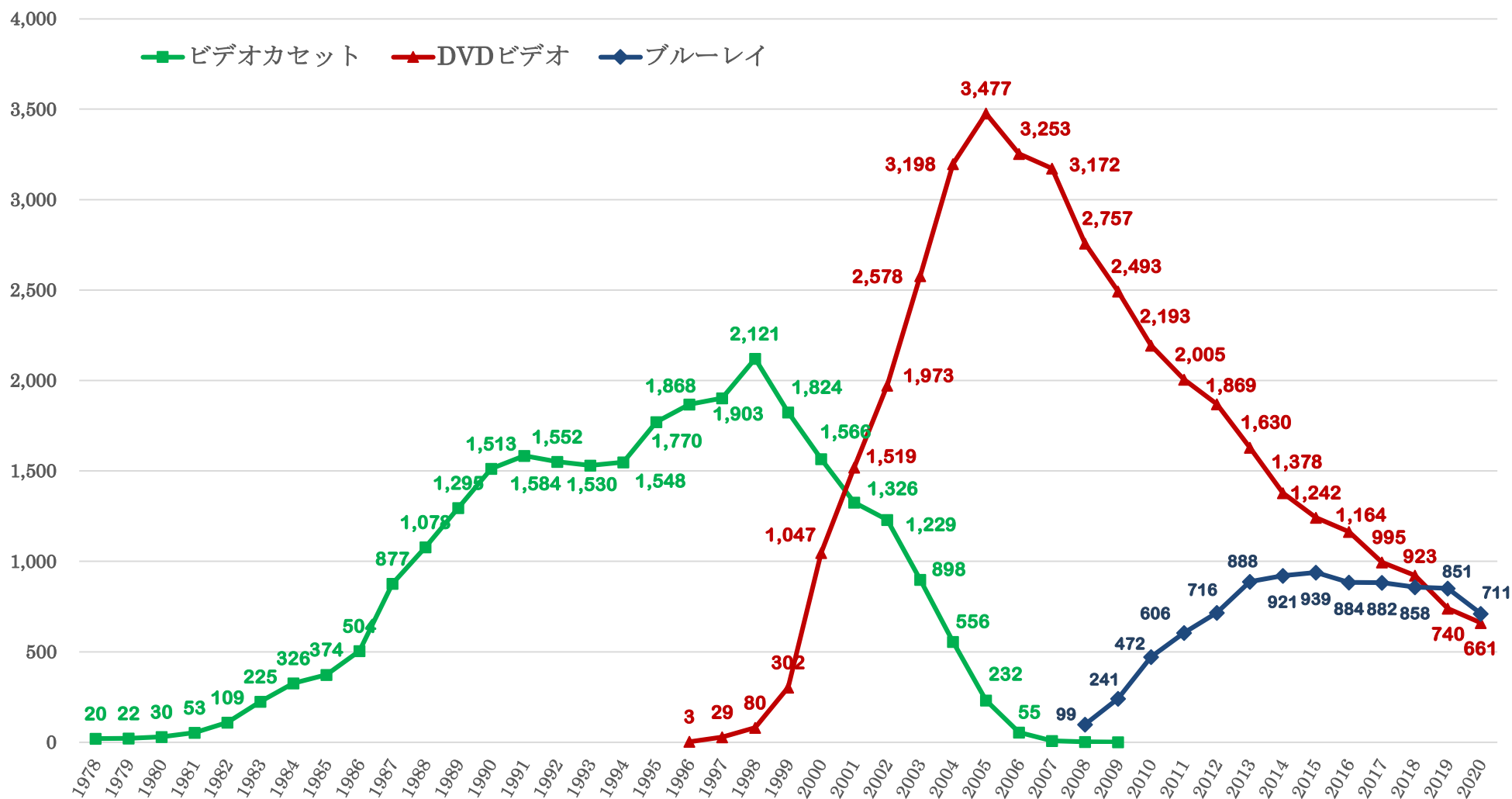
[数値の出典]

日本映像ソフト協会(2021)「ビデオソフトの売上金額と数量の推移(1978年～2020年)表」

<http://jva-net.or.jp/report/>

http://jva-net.or.jp/report/videomarket_2.pdf

図4 日本におけるビデオソフトの売上金額の推移 1978-2020[単位:億円]



[数値の出典]

日本映像ソフト協会(2021)「ビデオソフトの売上金額と数量の推移(1978年～2020年)表」

<http://jva-net.or.jp/report/>

http://jva-net.or.jp/report/videomarket_2.pdf

図5 日本におけるビデオソフトの記録メディア別・販売形態別売上金額の歴史的推移 1991-2020
(実線が個人消費者向けの販売用ビデオの売上金額、点線がレンタルビデオ店向けレンタルビデオの売上金額)

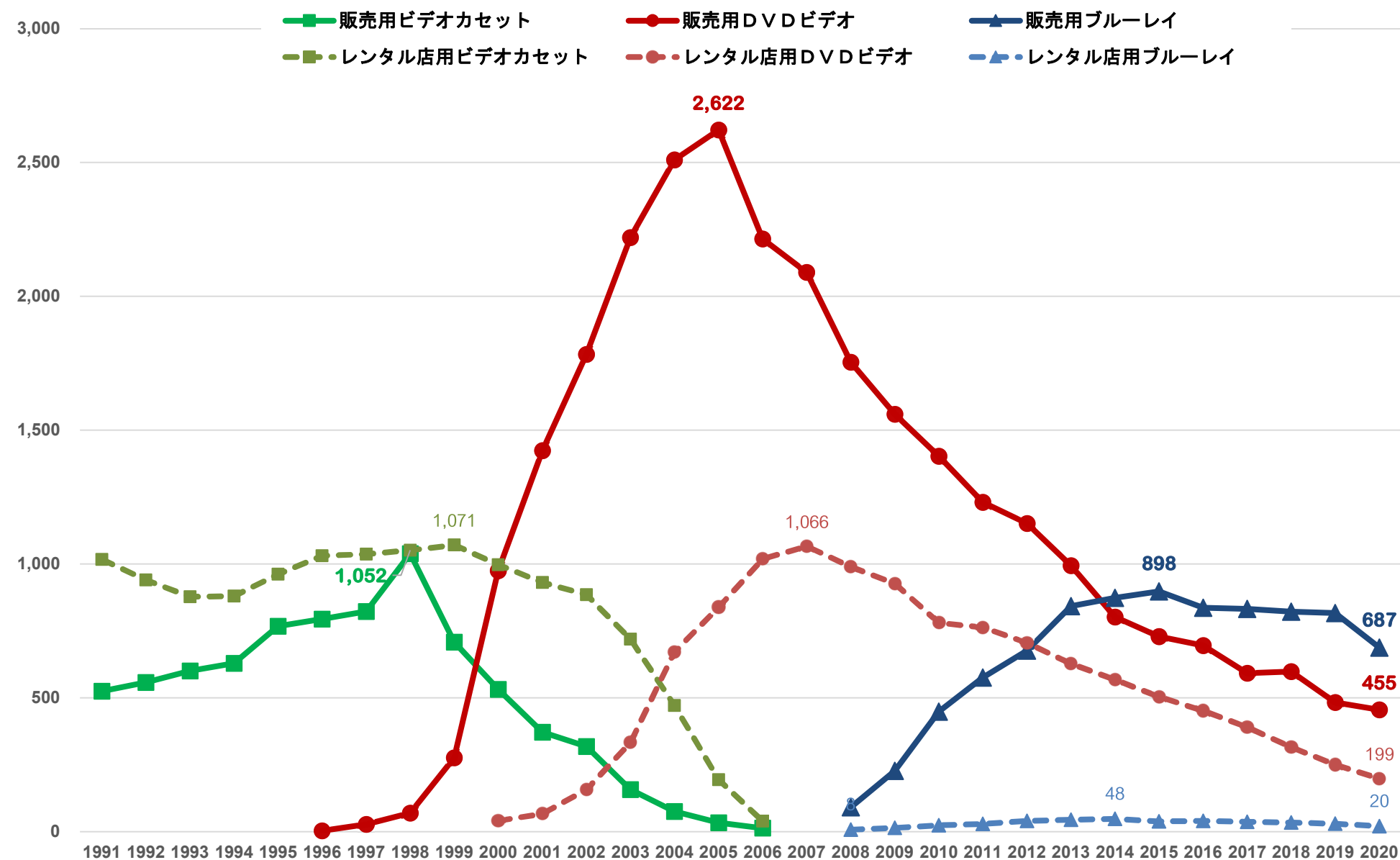
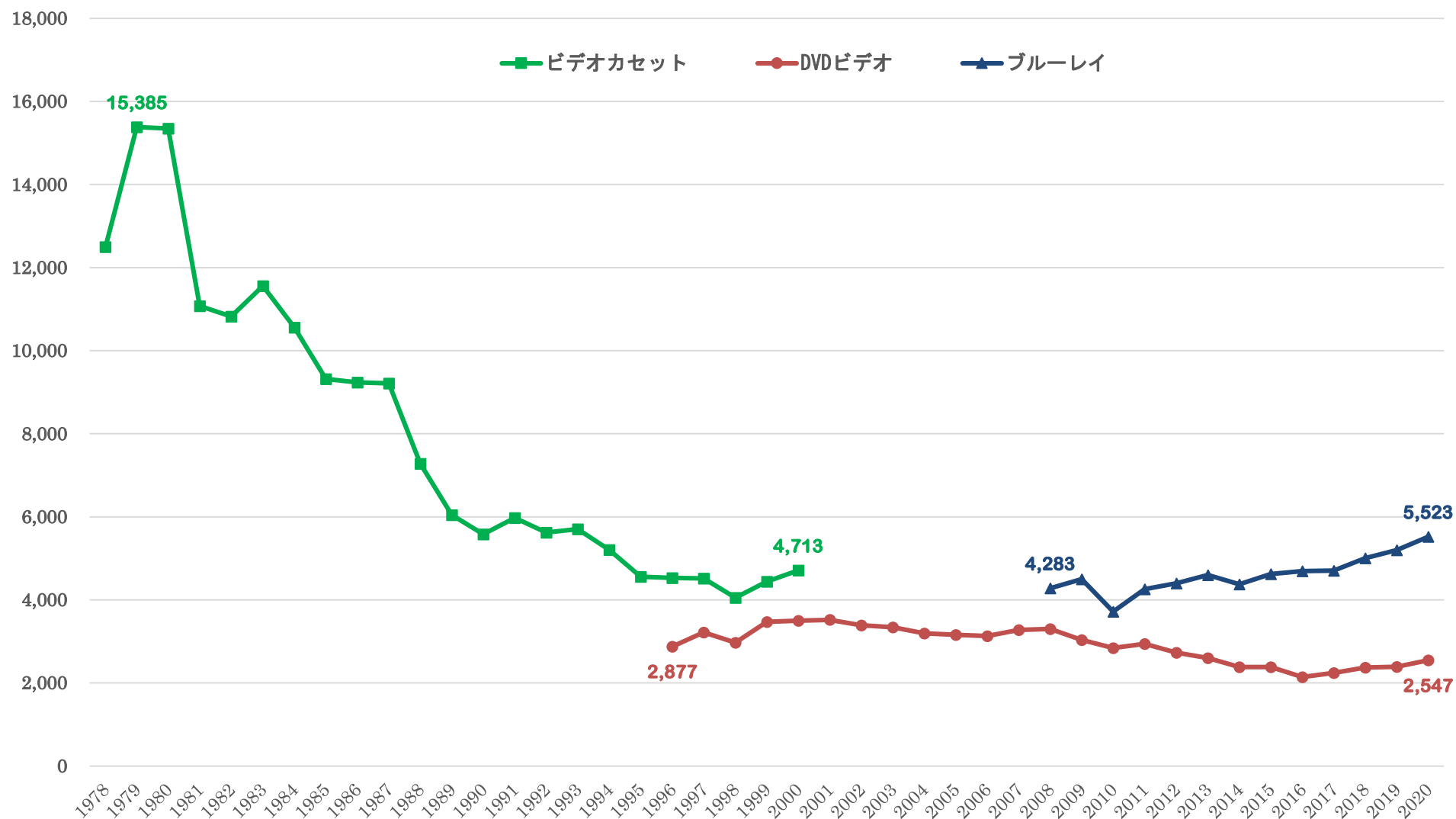


図6 日本におけるビデオソフトの単価の推移 1978-2020[単位:円]



[数値の出典]

日本映像ソフト協会(2021)「ビデオソフトの売上金額と数量の推移(1978年～2020年)表」に基づき、算出した。

<http://jva-net.or.jp/report/>

http://jva-net.or.jp/report/videomarket_2.pdf

図7 日本におけるレンタルビデオ店向けビデオソフトの記録メディア別および合計売上金額の歴史的推移 1991-2020

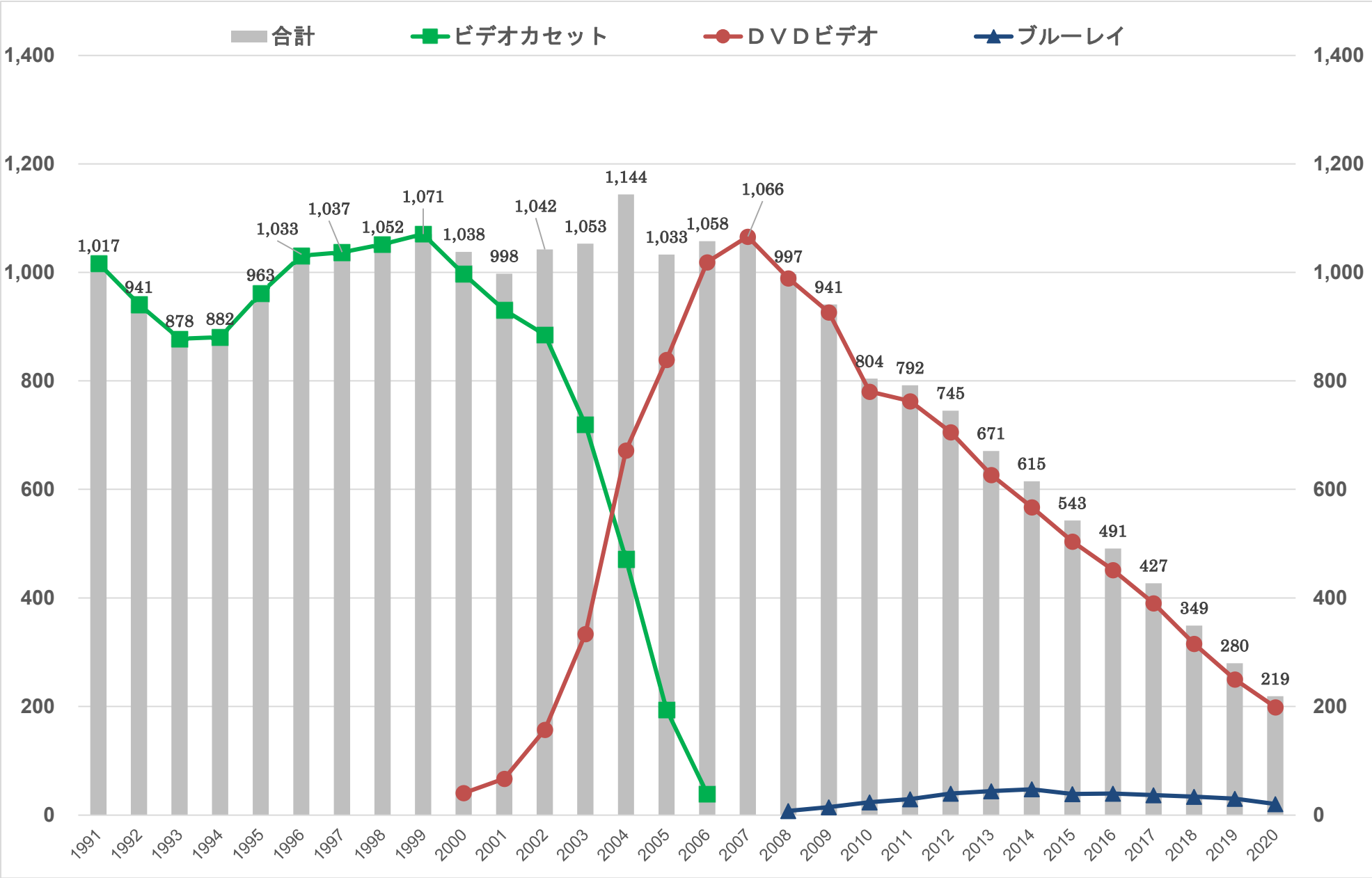


図8 日本における販売用ビデオソフトの売上金額の推移 1991-2020[単位:億円]

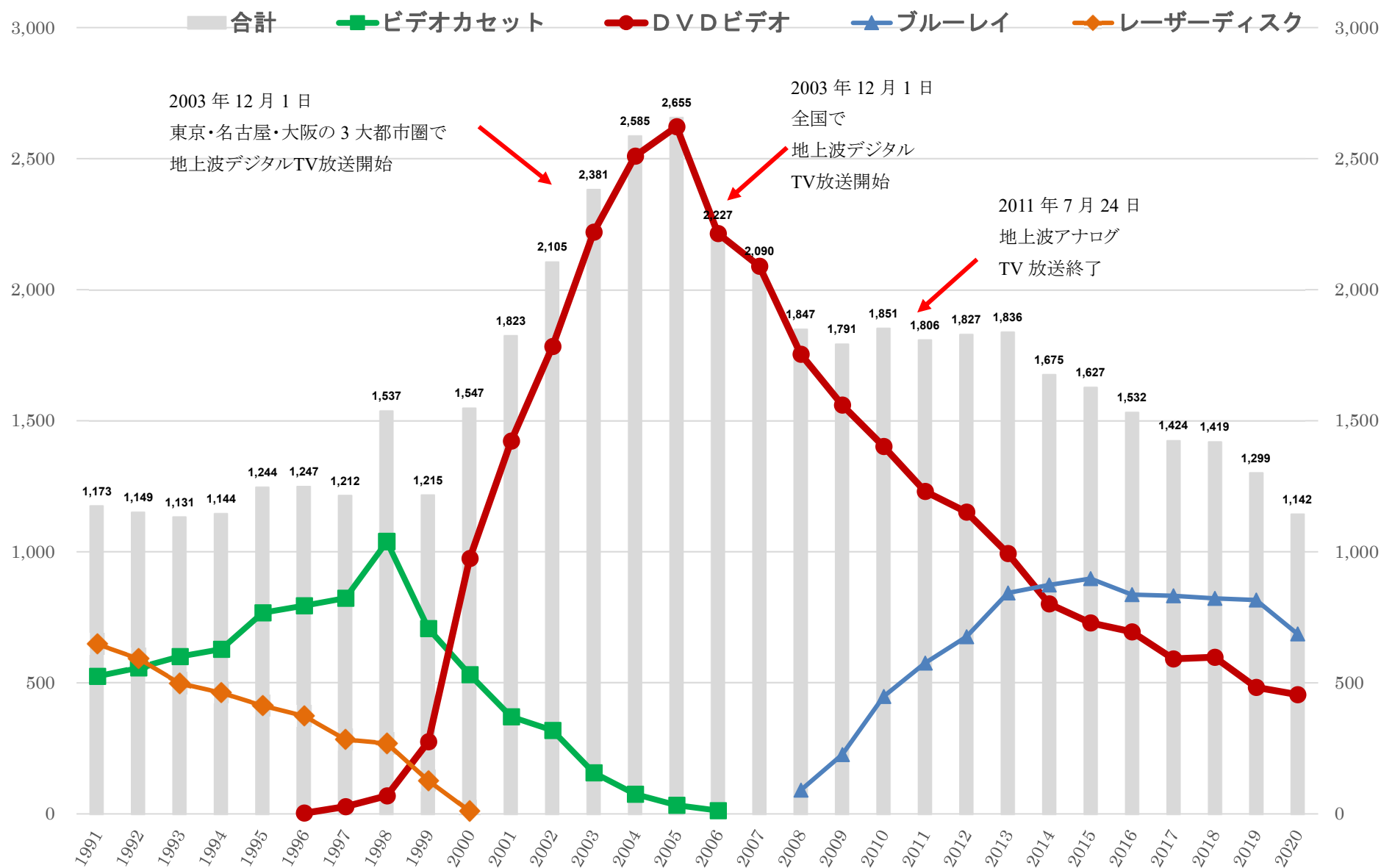
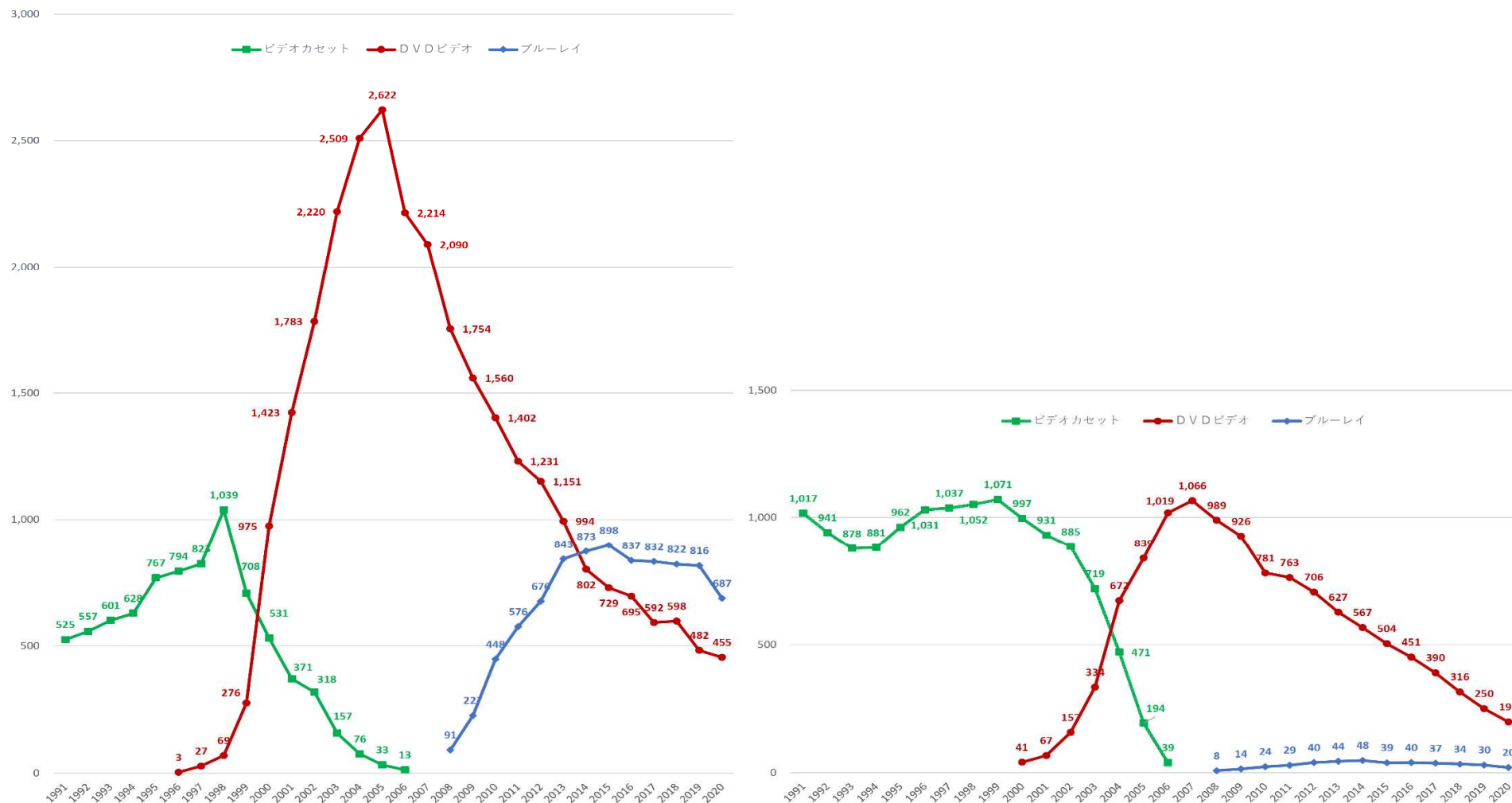


図9 日本におけるビデオソフトの記録メディア別・販売形態別売上金額の歴史的推移 1991-2020
 (左が個人消費者向けの販売用ビデオの売上金額、右がレンタルビデオ店向けレンタルビデオの売上金額)



[数値の出典]

日本映像ソフト協会 (2021) 「ビデオソフトの市場別、ジャンル別の売上金額等の推移」

<http://jva-net.or.jp/report/>

http://jva-net.or.jp/report/genre_sales.pdf